

英会話市民マラソン

あなたの街で開催してみませんか？

■ 日本における市民マラソン

日本には、すでに数多くの(実際に走る)市民マラソンが存在します。

例えば、2012年に始まった「飛騨高山ウルトラマラソン」もそのひとつです。

飛騨高山ウルトラマラソン

<http://www.r-wellness.com/takayama/2014/>



趣のある古都を背景に走る人々は、小京都ともいわれる飛騨高山のイメージを見る者の目に焼き付けています。同様に、この英会話市民マラソンも、皆さんの街のイメージと結びつけていくことができます。

下は、大阪府の銀行が地元自治体の協賛を得て開催した「泉州国際市民マラソン」で、現在では恒例イベントとなっています。

泉州国際市民マラソン | 池田泉州銀行

http://www.sihd-bk.jp/news/130219_01.html



この例のように、複数の市町の協力を得ることもできます。

現在、日本では毎年 100 以上のフルマラソン・イベントが開催されており、もちろん 5 キロ、10 キロレースなども数多く行われています。

2014-2015 国内マラソン大会 & ツアー 一覧

<http://marathontour.info/kokunai.html>

■ 英会話市民マラソンとは*

*英語では English Conversation Marathon (略称 ECM) と呼びます。

《目的》

せっかく英語を勉強しても使う場所がほとんどない今の日本では、より多くの人々が「英語を使う」機会を作ることが大変意義のある目標であるといえます。

英会話市民マラソンでは、年に一度、英語を使う筋肉、頭、精神を鍛えます。

ゆくゆくは市民マラソンと同じように、全国各地にて毎年行われる恒例イベントになることを目指します。

また、英語を実際に使っている人々の姿をアピールして「英語が苦手な国民」のイメージを払しょくし、英語を使うことに対する“肯定的な”イメージアップも図ります。これにより、現在そして今後の世代も、英語＝「コンプレックス」「苦手」「恥ずかしい」という意識から、日本人でも「ふつうに」「自分なりに」英語を使えるという意識に変えていき、英語がよりよい形で日本に定着していくような活動を推進することが狙いです。



《「英会話市民マラソン」の概要》

1. 走るマラソンのように、2時間以上、継続的に英語を使って会話をします。

ただし、長時間走り続けるマラソンのようにただひたすら英語を話すだけではなく、多くの人が無理なく参加できるよう、いくつかの段階に分けて参加することができます。また、マラソンのように上手い人から先に終了し、初心者が最後に終わるのではなく、初心者や初級者が早い段階で終了し、上級者は先の段階へと進んで、約3時間の英会話マラソンになります。

2. プラン概要

ボランティア実行委員の皆さまのお力をお借りして、詳しいガイドブックを作成します。

まず、皆さまの地域で地方自治体、学校、企業など協賛団体を探していただいて小規模のイベントを行い、成功したら規模を拡大していきます。

私たちのゴールは、活動のネットワークを徐々に広げ、2020年までに3～5か所の自治体で英会話市民マラソンを行えるようにすることです。

その第一歩は、まず小規模の英会話市民マラソンを実現させ、そして成功させることです。

次のステップでは、最初の成功例をもとに、より規模を拡大した英会話市民マラソンの実施手順を確立します。

そして、英会話市民マラソンについて認知度を高めていきましょう。

3. 走る市民マラソン同様に…

- (1) 英会話市民マラソンは、非営利活動です。
- (2) 協賛団体から支援を得られるようにします(地方自治体、学校、企業など)。
- (3) 特定団体のメンバーに限らず、誰でも参加できます。

団体や組織ごとの英会話イベントは、日本でもすでに多数行われていますが、英会話市民マラソンは、協賛団体の支援を得て行う、誰でも参加可能な、社会の意識を高める公共活動です。

■ 「英会話市民マラソン」の中核となるコンセプト

個人的には、大学の講義、企業イベント、教養講座などで、さまざまな類似活動を行ってきています。

主な活動はペアでの英語のコミュニケーションを通じて行い、このペアワークを、短時間で次々と相手を変えながら行っていきます。

これまでの経験では、短時間で相手が変わる方が、決まった相手と長時間コミュニケーションを続けるよりうまく行き、また3人以上のグループでコミュニケーションするより、ペア(2人)でやった方がうまく行きます。

★ このペアワークは、次のようにすると最も成功します。

- それぞれの役割を明確にし、
- 短い制限時間内にコミュニケーションし、
- ペアの組み合わせを次々に変えていく。

さらに、初心者が参加しやすいように、次の2つのことを行います。

1. 結果は、言えた文または単語の数で測ります。
2. 話すテーマは、こちらから提供します。

上の2つにより、参加者は簡単なことばで、そしてより楽な気持ちでより多くのことを話せるようになります。

詳細な手順や課題は省きますが、将来英語を使う機会があったとき、あまり抵抗を感じないで英語を話せると全参加者が思えるようになることがとても大切です。

英会話市民マラソンにおける英会話は、教科書や講義内容に沿ったものではなく、初心者でも基本レベルで「自由に話せる」ことを示すためのものなのです。参加者は、それぞれ限界を感じたところでレースを終了しますが、以前より自分の英語力がアップしたことを感じられるはずで。

このようにフォーマットを用意して緊張感やプレッシャーをなくすことで、遠慮しあつて気まずい雰囲気になり会話が弾まないという状況をなくすることができます。逆に、フォーマットと発話基準がはっきりしていることで、さまざまな方が参加できるようになります。

繰り返しになりますが、ペアワークで互いの役割とトピックを明確にすることが、この活動の最も重要な点で、これにより、初心者でも、実際に英語を「使う」第一歩を確実に踏み出すことが可能になります。

■ 英会話市民マラソンの立ち上げ

1. 協賛団体(地方自治体、学校、企業など)の協力を仰ぎ、まず小(～中)規模に行います。
2. 初級者から上級者まで(16歳以上)参加して楽しめるようにします。
3. 参加人数は最低30人、最高200人程度とします。
4. イベントの所用時間は、
スタッフ準備1時間+参加者集合1時間+マラソン実施2～3時間+後片づけ1時間＝計6時間
(200人を超えた場合は、2日に分けたり、グループを増やすなどします)。
5. 初心者が参加しやすいようにするための工夫として、レベル別に(自己申告)グループ分けします。
6. レースは、トーナメント方式(レベルごとのブロックで優勝者を決める)または、
グループトーナメント方式(各レベルの参加者を混ぜたグループで、グループ対抗戦をする)で行います。

■ 将来的な展望

できるだけ毎年継続して開催し、得られた経験に基づいて方法やモデルを改善し、それぞれ達成内容を記録して活動を向上させる。

今回立ち上げる活動(アルファ版)を、より改善した活動(ベータ版)へと進化させ、徐々に多くの市町レベルで年間行事として実施していき、各地で年に一度それぞれのタイミングで開催。

■ ボランティア実行委員(運営メンバー)の皆さまへ

➤ 皆さまのコミュニティで、英会話市民マラソンを立ち上げてみませんか？

協賛団体： 自治体その他の団体、学校、企業等
参加者： 30人以上の参加が見込める団体等
場所： 英会話市民マラソンが行える場所

➤ いっしょにやってみませんか？

1. 協賛団体向けのプレゼン資料作成と依頼チーム
各自治体、機関、団体、企業などへの企画資料を作成し、持ち込む
実施場所の確保、広報、スタッフ募集、自治体、機関等に協力を要請
2. 実施マニュアル作成チーム
ノウハウの開発と実施要綱の作成(効率的で参加しやすい実施方法を考案)
協賛団体に応じて資料と実施方法を適宜修正
3. 実行委員メンバーシップ・チーム
ミーティングや進捗状況に関する連絡
活動を支えるボランティアのネットワークづくり
準備委員会の発足(イベントの実現と、全国的な広がりを目指す)